

♪ 研修会参加記 ♪



日赤図書室協議会に初参加いたしました

中野 武

去る7月18日と19日に開催された第9回日赤図書室協議会総会・研修会に初めて参加しました。私共の病院も病院機能評価受審の準備中で、その一環として病院図書室の充実が懸案です。そんなおり協議会の存在を知り参加させていただいた次第です。会場は本社201会議室。暑いなか全国から多数の関係者が参集され改めて日赤の大きさを想いました。同じ県支部から長野、飯山両赤十字病院の担当者も来ておられ、早速名刺を交換。馴染みの病院名がありホッとしたのが正直なところでした。

第一日目の研究・事例発表に6演題の御発表があり、各病院での試みなどが提示され、皆様の活動の高さが良くわかりました。特に今回は病院機能評価の情報収集という病院長からの指令もあり、長野病院病歴図書管理課前沢好広氏の病院機能評価の講演が私にとって大変有意義でした。本年3月長野赤十字病院に見学に行きましたが、これほど詳しいお話は聞けなかったので大変有用な情報を得ることができました。

研究発表の後、各話題に分かれての自由討論の場があり講演での情報・知識を更に深化させることができました。終了後の懇親会にはほぼ全員が参加。これで新参者である私も一気に打解けることが出来たのです。

二日目の公開講座も興味深い内容で講師の先生方に感謝します。特に私は、順天堂大学図書館の青木 仕先生のお話を大変興味深く拝聴い

いたしました。雑誌投稿のルール、知的生産活動のための図書・情報検索、そのツールと方法論、情報収集と整理、執筆、さらに図書館学の立場からの雑誌編集などについての御講義が大変有益でした。後日先生から御論文の別刷りも御送りいただき、またいくつかの学問的な示唆を得ることができました。

当然ながら、図書情報による利益の最終的享受者は患者さんです。そして医療図書館員は図書情報のユーザーである我々の強い味方であります。正直なところ Medical Librarian のお仕事について今回認識を新たにしました。不明を恥じなければなりません。

受け売りになりますが、これからの医療は、いかにエビデンスある情報を集め使い切るかが勝負。だとすれば、かかる情報を入手できる仕組の構築が重要であります。また情報収集の仕組が不良でエビデンスある情報の収集に病院、地域で差が生じては医療の公共性、公平性が没却されます。この視点にたてば、図書室協議会の活動がいかに重要かが理解できます。このたび会員に加えていただきましたが、協議会を通じて日赤のスケールメリットを最大限に活用させていただく所存であります。ご指導のほど宜しくお願い申し上げます。

病院紹介 豊科赤十字病院（長野県）

北アルプスのふもと信州の安曇野にあります。もっとも信州らしい風景の残る場所です。図書室は現在整備途上で、その現状は拙文「ある本との出会い」日本医事新報4076:43-44.2002を御笑覧ください。

NAKANO Takeshi

豊科赤十字病院 神経内科部長
pac01684@gotvm.ne.jp

